令和３年度
自 己 点 検・評 価 報 告 書

≪評価対象期間≫

自：令和３年４月　１日

至：令和４年３月３１日

令和４年６月３０日

学校法人都築学園

福岡天神医療リハビリ専門学校

【評価項目】

1　教育理念・目的・育成人材像
2　学校運営
3　教育活動
4　学修成果
5　学生支援
6　教育環境
7　学生の募集と受入れ
8　財務
9　法令等の遵守
10　社会貢献・地域貢献

【評価標記】

区　分	意　　味
4	適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
3	ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
2	対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
1	全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

1　学校の理念、教育目標

教　育　理　念	教　育　目　標
建学の精神を基調に「個性を伸ばし、自信をつけさせ、社会に送り出す」を教育理念とし、学生生活を通じて社会に貢献し得る知識、技能の習得並びに豊な人間形成を目指しています。	医療福祉関係において、社会のニーズに即応できる有為な人材の育成を目的として、専門的なリハビリテーション医療の知識・技能を身に付け、地域医療に貢献できる理学療法士、作業療法士、はり師・きゅう師、柔道整復師を養成する事を教育目標とする。

2　本年度の重点目標と達成計画

令和３年度重点目標	達成計画・取組方法
１　教育 （１）全学科２学期制への移行のため、鍼灸学科及び柔道整復学科のカリキュラムの変更。 （２）進級率、卒業率、なかんずく国家試験合格率の向上を図る。 （３）ＦＤの一環として、教員相互の授業観察を実施する。 （４）教育の魅力化、国家資格に加えた付加価値としての認定トレーナー資格取得を推奨する。 ２　学生支援 （１）「就職セミナー」、「合同就職説明会」を含む組織的な就職サポートによる、就職率１００％の達成 （２）厚生活動として、４月から５月にかけて「新入学生フレンドシップサークル」を、１１月には「学校祭」、１２月には「餅つき大会」を実施し、学生間並びに地域住民との交流及び連携強化 ３　募集・広報 （１）出張講義、進路説明会、高校・施設訪問及びオープンキャンパス等の接触広報の充実 （２）ホームページをリニューアルする等、インターネットを活用したデジタル広報の強化 （３）令和４年度入学者１２０名以上の獲得	１　教育 ・教育課程変更承認申請を実施し、令和３年度入学生から適用 ・学力や素養に応じた個別指導を徹底するとともに、最終学年については、国家試験対策のため業者の模擬試験を計画的に実施して合格率向上を目指す。 ・５月から１２月の間に学科内の教員授業観察を実施して、相互啓発による授業の質の向上を図る。 ・認定トレーナーの魅力についてＰＲし、３月に受験を計画する。 ２　学生支援 ・就職支援の学校事業として「就職セミナー」、「合同就職説明会」を最終年次の学生を主対象に実施する。 ・厚生活動として４月から５月にかけて「新入学生フレンドシップサークル」と称し、学科別に教員・学生間の交流を図る。また、１１月の「学校祭」、１２月の「餅つき大会」を通じ、地域住民との交流を図る。 ３　募集・広報 ・高校訪問については、全教職員に担当地域を割当て、計画的に訪問広報を行なう。 ・オープンキャンパスは、高校生等が動きやすい夏休みを重視し、年間計画を作成するとともに、実施内容等については適宜見直しを行ない効果的なものとする。 ・ホームページをリニューアルし、広報活動内容を充実させる。 ・学校近傍の自治体・民間が企画する各種行事に学生等を積極的に参加させ、地域との連携強化を図るとともに学校広報の一助とする。

3　評価項目別取組状況

基準１　教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
【総括】 本校の教育理念・目的・育成人材像については、医療系リハビリ専門士養成校として学校案内、パンフレット、ホームページに明示しており、カリキュラム、シラバス等を通じ具体化し、社会のニーズに即応できる人材を養成している。 【課題】 ・時代の変化に応じ、的確に社会のニーズを把握し、そのニーズに即応できる有為な人材育成 ・職業養成校として国家資格取得のための教育方法について工夫が必要である。	・病院・リハビリ施設等から社会的ニーズや医療業界の将来的な動向に関する情報を入手し、教育目標や育成人材像への影響について継続的に分析して行く。このため、教員には必要な研修等を着実に受講させ、その内容を教育に反映させる。 教員の研修成果を校務運営に反映させる具体策が必要である。 ・学生の学習成果を踏まえ、学生個々の学力レベルに応じた教育・指導方法について検討を行なう。	

1-1　理念・目的・育成人材像

小項目	評価	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1　理念・目的・育成人材像は、定められているか	4	個性を伸ばし、自信をつけさせ社会に送り出すことを教育理念として掲げ、医療福祉関係において地域医療に貢献できる人材の育成のため医療系リハビリ専門士を希望する学生・社会人を広く受け入れ、担任制により個々に応じたきめ細かな教育を行うとともに、医療福祉業界の即戦力として活躍できるよう、必要な躾指導を含め、国家試験合格レベルの学力及び必要な技術の付与に教職員が一丸となって取り組んでいる。	医療福祉関係において時代の変化に応じ、社会のニーズに即応できる有為な人材育成	・病院・施設等との密接な連携による時代に応ずる必要な人材像を具現化する。このため、臨床実習指導者会議を継続的に開催する。	
1-1-2　育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4	医療福祉関係において社会のニーズに即応できる有為な人材を育成するという理念のもと、その達成のための教育目標・育成人材像の方向付けを定めている。	学科等に対応するニーズの的確かつ継続的な把握	病院・リハビリ施設等から社会的ニーズや医療業界の将来的な動向に関する情報を入手し、教育目標や育成人材像への影響について継続的に分析して行く。 このため、教員には必要な研修等を着実に受講させ、その内容を教育に反映させる。	

小項目	評価	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参照資料
1-1-3　理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか	3	厚生労働省の指定養成校としての基準に沿った教育時間数を設け、医療系リハビリ専門士資格取得に必要な科目体系を毎年の国家試験の傾向や受験結果、学生の素養等を踏まえ検討するとともに、業界団体の意見を踏まえ職業教育を重視したカリキュラム及びシラバスを定めている。	職業養成校として国家資格取得のための教育方法について工夫が必要である。指定規則改正を反映した国家試験出題基準（傾向）がある程度明確化されたことに鑑み、カリキュラムの変更を検討する。	・学生の学習成果を踏まえ、個々の学力レベルに応じた教育の実施 ・1 年次より国家試験対策を行い、国家資格取得に意識を向けた教育の実施 ・病院等研修成果を少しでも教育（シラバス）に反映させる。 ・研修発表会による医療現場の情報の共有	
1-1-4　社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4	・高齢化社会のニーズに合わせて医療現場に求められる人材を養成している。特に昨今叫ばれている地域包括ケアシステムの構成要素である介護・リハビリテーションの専門職要員として社会に貢献できる専門士の養成を目指している。	社会のニーズに合致した魅力的な専門学校づくり。	・高校及び業界団体との連携の更なる強化 ・付加価値のある教育内容の充実を図るため、日本アクティビティ協会「健康ゲーム指導士」及び日本スポーツリハビリテーション学会（ＪＳＳＲ）トレーナーに関する教育の継続	

中項目総括（理念・目的・育成人材像）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校の教育理念・目的・育成人材像については、医療系リハビリ専門士養成校として、学校案内、パンフレット、ホームページに明示しており、カリキュラム、シラバス等を通じ具体化し、社会のニーズに即応できる人材を養成している。	

基準２　学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
【総括】 本校の建学精神、教育理念に基づき、毎年学校の運営方針、事業計画を策定し、運営組織の見直しを図りながら適正な校務の運営に努めている。 但し、情報システムの活用については不十分であり、教育業務の簡素化・効率化の観点からも計画的かつ早急な整備が必要である。		
【課題】 ・医療リハビリ専門士に対する社会的ニーズや医療業界の将来的な動向を踏まえた学校運営方針の継続的な検討	・学校関係者評価結果を活用した継続的な検討	
・学校としての法人規程の更なる具体化	・法人の規程を踏まえた学校規定の整備・具体化	
・授業等においてｅラーニング教育の十分な活用ができていない。一方で、コロナ禍におけるＺｏｏｍを使用したオンライン授業の実施要領が確立できている。	・ｅラーニング教育の普及（オンライン授業の検討） 特に、新年度入学生に対しＺｏｏｍを使用したオンライン授業の実施要領を早期に普及し、収束の見通しのたたないコロナ禍に対応する。	

2-1　運営方針

小項目	評価	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参照資料
2-1-1　理念等に沿った運営方針を定めているか	4	開校当初から建学の精神を基調とした教育理念に基づき毎年度、学校運営・目的に沿った学校運営方針を定め学生便覧の中でも明示している。	医療リハビリ専門士に対する社会的ニーズや医療業界の将来的な動向を踏まえた学校運営方針の継続的な検討	学校関係者評価を活用した継続的な検討	

中項目総括（運営方針）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校の建学の精神、教育理念に基づき、毎年、社会の変化に呼応し学校運営方針を定め校務を運営している。	

2-2　事業計画

小項目	評価	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1　理念等を達成するための事業計画を定めているか	4	毎年度、学校運営方針に基づき、教育、学生支援、募集広報等について具体的に事業計画を定めている。	特になし	事業計画の更なる具体化	

中項目総括（事業計画）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中期的経営改善計画に基づき単年度事業計画を毎年作成し、その達成に教職員一丸となり取り組んでいる。	●経年劣化した空調システムの更新を検討中 ●３年度に教職員用ネットワークシステム（業務用ＰＣ）を更新した。

2-3　運営組織

小項目	評価	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1　設置法人は組織運営を適切に行っているか	4	法人は、寄付行為に基づき理事会、評議員会等適切に開催し、必要な事項について審議を行っている。	特になし	特になし	
2-3-2　学校運営のための組織を整備しているか	4	法人の規程に学校運営組織、意思決定の権限・手続き等主要な事項が定められており、着実に実行している。	学校としての法人規程の更なる具体化	法人の規程を踏まえた学校規程の整備・具体化	

中項目総括（運営組織）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の運営組織は、毎年見直し、業務の簡素化・効率化を図っている。	

2-4　人事・給与制度

小項目	評価	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1　人事・給与に関する制度を整備しているか	4	法人の規程に定められている。	特になし	特になし	

中項目総括（人事・給与制度）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法人の人事・給与規程に則り合規・適正に運用している。	

2-5　意思決定システム

小項目	評価	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1　意思決定システムを整備しているか	4	・法人の規程に学校運営組織、意思決定の権限・手続き等主要な事項が定められており、着実に実行している。 ・令和元年１１月に学校規程類を作成し適正な校務運営を図っている。	業務を実施するうえで、新たに作成する必要のある規程類の検討	作成した規程類の実効性、問題点の把握	

中項目総括（意思決定システム）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法人の規定に基づき意思決定権限等を明確にし、校務を運営している。	

2-6　情報システム

小項目	評価	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1　情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3	予算管理及び学生管理は教務・会計システムを導入しており、業務の効率化を図っている。 学生教育においては、新型コロナ感染症の影響に鑑み、Ｚｏｏｍを使用したオンライン授業の実施態勢を確立している。 また、校内 WiFi 環境を活用し、タブレット等の国家試験対策学習アプリによる e ラーニング教育を一部で実施している。	WiFi 環境を活用しているのは柔道整復学科のみ。 Wifi 環境活用に関する教職員の意識改革が必要	e ラーニング教育の普及要領を検討するとともに、状況により現行の Wifi 環境のｸﾞﾚｰﾄﾞｱｯﾌﾟを検討する。	

中項目総括（情報システム）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
情報システム（教職員の業務用ＰＣ）を新しくリース契約して更新した。	

基準３　教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
【総括】 ・国家試験出題課目を重視してカリキュラムを編成し、各科目の到達目標・成績評価方法・学習指示は、シラバスで明確にしている。また、単位の認定及び成績評価に関しては、学生便覧を通じ学生に明示するとともに、ホームページにも公表している。 ・新型コロナ禍のため、令和３年度前期は殆ど遠隔授業となった。 ・資格取得の指導体制としては、１年次から国家試験対策模試、時間外補習、集中国家試験勉強会等を各年次毎に計画的に実施し、国家試験対策に取り組んでいる	・遠隔授業の質の向上（特に学力が低い学生へのモチベーション維持のための工夫当） ・新型コロナ感染対策を十分に講じた上での対面授業の実施への適切な取り組み	・令和３年度から全学科昼間部のみとなった。 ・授業アンケートの実施と結果の反映
【課題】 ・卒業後、実社会で即戦力となれるよう、より実践的な教育課程の編成 ・最終的に国家試験合格を目指した実践的なカリキュラムの検討 ・計画的な医療リハビリ系教員資格保有者の確保 ・学会等の研修については、業務の都合また、予算上で参加できない場合がある。	・卒業生の追跡調査と教育課程の編成への反映 ・学校評価委員会の活用及び積極的な関連分野企業等からの意見聴取 ・指定規則改正後の国家試験出題傾向を分析したカリキュラムの変更 ・資格保有者に対する継続的な情報収集及び募集 ・研修等の必要性について考慮し、努めて参加の方向で検討	

3-1　目標の設定

小項目	評価	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参照資料
3-1-1　理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	教育理念に基づき「理論学習」と「実践学習」のバランスのとれたカリキュラムを構成し、その内容はシラバスで具体化されている。	卒業後、実社会で即戦力となれるよう、より実践的な教育課程の編成	卒業生の就職先への訪問等による追跡調査と教育課程の編成への反映	
3-1-2　学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3	厚生労働省の指定養成校としての基準時間以上に学修時間を確保し、教育課程表で明示するとともに、各科目の教育到達目標はシラバスで明確化されている。	・令和３年度国家試験は、柔道整復学科を除いて、更なる努力が必要である。 ・受験率の向上	・学科ごと受験率・合格率目標の設定 ・国家試験対策（授業、試験要領等）の見直しと判定基準の客観化を検討。 ・学生の個々の特性・能力に応じた計画的な補習時間の確保 ・遠隔授業の質の向上	進学先を検討する上で重視したことの NO１は「国家試験合格率」であり、来年も悪かった場合、学校案内への記載の可否を含めた深刻な問題である。

中項目総括（目標の設定）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
シラバス等において各科目の到達目標・成績評価方法を明確にしており、学校のホームページで学生がいつでも閲覧でき、また保護者や関係業界等にも情報公開している。	

3-2　教育方法・評価等

小項目	評価	現状の取組状況	課　　題	今後の改善方策	参照資料
3-2-1　教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	2	・指定規則に基づき教育課程を適正に編成するとともに、国家試験出題科目の取り入れと医療現場で即戦力となりうる必要な内容を重点にシラバスに反映させている。 ・理学療法学科の評価実習の時期を３年次から２年次に変更、作業療法学科の卒業研究の時間の増加、鍼灸学科及び柔道整復学科の学期区分を２学期制へ変更した。 ・指定規則改正を反映した国家試験出題基準（傾向）に基づき、７月末までにカリキュラムの変更を予定（理学療法学科、鍼灸学科及び柔道整復学科）	令和３年度国家試験は、柔道整復学科を除いて、国家試験の合格率が、前年度より下回った。	・学科ごと受験率・合格率目標の設定 ・学生の個々の特性・能力に応じた計画的な補習時間の確保及び個別指導 ・遠隔授業の質の向上 ・実効性ある国家試験対策と受験率の向上	
3-2-2　教育課程について外部の意見を反映しているか	3	臨床実習病院・施設等の現場の意見を聴取し、カリキュラムや実施要領に反映させている。	臨床実習病院・施設等以外の学校関係者及び関連分野企業等の意見の反映	・学校評価委員会の活用及び積極的な関連分野企業等からの意見聴取 ・臨床実習指導者会議の開催（ＰＴ・ＯＴ）	
3-2-3　キャリア教育を実施しているか	4	実技実習教育にあたり、学生の特性・能力・希望に沿った臨床実習先の確保と実践的実習教育の実施に努めている。	実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムの編成・充実	実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムの更なる研究と工夫	

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
3-2-4　授業評価を実施しているか	3	・教員の自己評価の実施 ・教員相互の授業観察による授業の質の向上	・結果に対する分析・反映内容が不明確 ・授業アンケートの継続 ・教員相互の授業観察の工夫	・授業評価の実施・評価体制の検討と制度化 ・個人ごとの授業アンケート結果表の作成・配布 ・学科相互間の相互授業観察の実施	

中項目総括（教育方法・評価等）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
国家試験出題課目と医療現場で必要としている資質・技能を重視した教育課程をカリキュラムに取り込み、具体的教育内容をシラバスに反映させ教育効果の向上を図っている。	

3-3　成績評価・単位認定等

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
3-3-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	成績評価の基準については、学則等で明確に規定するとともに、学生に対してはシラバス等をもって明示し、学校ホームページでも公表している。	特になし	特になし	
3-3-2　作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	4	理学療法学科、作業療法学科について、臨床実習前後の評価を確実に実施し、実習参加前の技術の一定水準の判定、実習後の目的の達成度を確認している。	特になし	特になし	

中項目総括（成績評価・単位認定等）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生便覧を通じ、学則等で成績評価・単位認定等を明示しており、学校ホームページにも公表している。	

3-4　資格・免許の取得の指導体制

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
3-4-1　目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	4	・指定規則に基づき適正に教育課程を編成するとともに、国家試験出題内容を念頭においてシラバスを作成している。 ・国家試験担当科目教員を指定し組織的に教育を行っている。 ・付加価値としての「健康ゲーム指導士」、「スポーツトレーナー」の資格取得が可能であることをホームページで公表している。	実践的なカリキュラムの構築	・国家試験に合格できるカリキュラム内容の検討 ・スポーツトレーナー、健康ゲーム指導士の授業内容への取り組み	
3-4-2　資格・免許取得の指導体制はあるか	2	国家試験担当科目教員を指定するとともに、学科を挙げて模擬テストの実施や時間外の補習授業等を組織的かつ計画的に行っている。	・令和３年度国家試験は、柔道整復学科を除いて、更なる努力が必要である。 ・卒業試験の時期、内容の検討	・学科ごと受験率・合格率目標の設定 ・国家試験対策（卒業試験の時期の検討、業者模試の活用） ・学生の個々の特性・能力に応じた的確な指導体制の構築及び計画的な学習時間の確保 ・判定基準の客観化を検討。	進学先を検討する上で重視したことのNO１は「国家試験合格率」であり、来年も悪かった場合、学校案内への記載の可否を含めた深刻な問題である。

中項目総括（資格・免許取得の指導体制）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
国家資格取得に向けて知識が段階的に蓄積されるよう、１年次から国試対策模試を取り入れ、時間外補習、国試集中勉強会等計画性をもって国試対策に取り組んでいる。	

3-5　教員・教員組織

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
3-5-1　資格・要件を備えた教員を確保しているか	4	医療リハビリ系関連の多様な経歴と実績及び資格を有する専任教員及び非常勤講師をバランスよく確保している。	安定的な医療リハビリ系教員資格保有者の確保	資格保有者に関する継続的な情報収集及び募集	
3-5-2　教員の資質向上への取組みを行っているか	3	知識･技量維持のための病院等研修を各教員は週１回を基準に行っている。また、各種学会、教員研修会等にも可能な範囲で参加させている。 大学院を修了している教員や､現在大学院で学んでいる教員もおり､リハビリや教育に関する研究を行う等､専門知識に基づいた質の高い教育に取り組んでいる。	・学会等の研修については、業務の都合また予算上で参加できない場合がある。 ・病院等研修の成果が目に見える形で校務に反映しているとは言えない。	・可能な場合は、オンラインでの参加及び資料の入手 ・研修成果発表会等の実施	
3-5-3　教員の組織体制を整備しているか	4	学科毎に専任・非常勤教員をバランス良く配置しており、授業内容・教育方法については、教員会議等をもって組織的な改善工夫に取り組んでいる。 特に、令和４年度は、学科内教員相互授業観察の実施による相互啓発による授業の質の向上を図る。	教員間の授業内容の把握が不十分	・学科相互間の教員相互授業観察により、授業の質の向上を図る。	

中項目総括（教員・教員組織）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
医療リハビリ系資格が求められる教員を容易に確保するのは難しく、中・長期的視野に立った対応が求められる。特に医療等業界関係者の情勢変化の把握が大事である。さらに、理学療法士作業療法士指定規則改正により、令和４年度からは、専任教員の資格が指定講座を受講した者に限定されるため、定年による専任教員の交代は先行的かつ計画的に実施する必要がある。	

基準４　学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
【総括】 ・就職率に関しては、クラス担任教員、就職事務担当者を始め、各教員の相互支援により学生個々へのきめ細かい指導を行っており、結果として就職率１００％を達成している。 ・卒業生の社会的評価については、卒業後の状況把握が難しく、今後は卒業生の名簿等（就職先）を定期的に整備し、各病院等での活動状況の把握に努め、教育評価に反映させる。	・卒業生名簿の作成やその活動状況の把握についての具体的な施策がない。	
【課題】 ・令和３年度国家試験結果は、柔道整復学科を除いては、さらなる努力が必要である。 ・卒業生に関するデータが学校として整理できていない。	・国家試験受験対策の工夫 ・学生の個々の特性・能力に応じた柔軟性ある指導体制の構築、業者模試試験の活用 ・医療業界や社会で活躍する卒業生の名簿の整備するための具体策を検討	進学先を検討する上で重視したことの NO１は「国家試験合格率」であり、来年も悪かった場合、学校案内への記載の可否を含めた深刻な問題である。

4-1　就職率

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
4-1-1　就職率の向上が図られているか	4	国家試験合格者（新卒者）で本校就職紹介所利用者は、就職率１００％を達成している。	特になし	特になし	

中項目総括（就職率）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生個々の特性に応じた適切な就職支援を行なうため、最終年次の３・４年担任教員への就職情報の提供を徹底するとともに、就職事務担当者を始め、各教員の相互支援により、学生一人一人へのきめ細かい指導を行なっている。	

4-2　資格・免許の取得率

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
4-2-1　資格・免許取得率の向上が図られているか	2	指定規則改正を反映した国家試験出題基準（傾向）に基づき、カリキュラムの変更を実施（理学療法学科、鍼灸学科及び柔道整復学科）	令和３年度国家試験は、柔道整復学科を除いて、その合格率向上施策が更に必要である。	・学科ごと受験率・合格率目標の設定 ・国家試験対策（卒業試験の時期の検討、業者模試の活用） ・学生の個々の特性・能力に応じた的確な指導体制の構築及び計画的な学習時間の確保 ・学生の個々の特性・	進学先を検討する上で重視したことの NO１は「国家試験合格率」であり、来年も悪かった場合、学校案内への記載の可否を含めた深刻な問題である。

中項目総括（資格免許取得率）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
令和３年度国家試験合格率　※（　）は、昨年度の合格率 理学療法士：50.0%（53.3%） 作業療法士：66.7%（90.9%） はり師　　：83.3%（88.0%） きゅう師　：91.7%（88.0%） 柔道整復師：100%（100%）	一時募集停止した影響により学生数（受験者数）が極端に少なかった影響もあるが、理学療法学科及び作業療法学科は、新型コロナ感染症対策を重視するあまり、国家試験対策で重要なグループ学習の指導が十分実施できなかった。

4-3　卒業生の社会的評価

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
4-3-1　卒業生の社会的評価を把握しているか	2	社会で活躍する卒業生を学校案内、ホームページに掲載する等、卒業後の活躍状況の把握・評価・広報に努めている。	卒業生に関するデータが学校として整理する具体策が必要。	医療業界や社会で活躍する卒業生の名簿の整備	

中項目総括（卒業生の社会的評価）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生の卒業後の状況把握が難しく、今後は卒業生の名簿（就職先）を定期的に整備し、病院・施設等での活動状況の把握に努め、教育評価に反映させる必要がある。	

基準５　学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
【総括】 ・就職支援は、担当教職員をもって適切に行っており卒業生の就職率１００％を達成している。 ・学生相談に関しては、経済的支援を含め、軽易に相談できる体制を整備している。 ・退学者防止については、昨年度に比べ１年生の退学者が増加しており、大半は成績不良によるものである。 その他、病気や家庭の事情による学生もおり、様々な観点からの対策を継続的に行う必要がある。 【課題】 ・成績不良や病気、家庭（経済的）の理由等による退学者防止が一部不十分 ・学生と十分なコミュニケーションが取れる相談体制の整備 ・就職支援に関しては、学生の希望とのマッチングが十分とはいえず、情報提供も含め能動的な支援体制の整備 ・関連業界との連携等が十分とは言えない。	・学生個々の能力・特性に応じた学習指導要領の見直し及び各種給付金等の活用 ・今後カウンセラー資格を持った教職員を配置し、より効果的な学生相談体制の整備 ・就職支援体制の強化による能動的な卒業生への支援体制の構築 ・病院等の関連業界との能動的なアプローチの構築	

5-1　就職等進路

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
5-1-1　就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	就職係、クラス担任を中心に面接指導、相談等を行い、学生の希望に沿った進路、就職支援を実施している。 また、就職セミナー及び労働条件セミナーを実施し、就職サポート体制を整備している。	特になし	特になし	

中項目総括（就職等進路）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職課、学生課、クラス担任及び各学科による支援組織体制は整備されており、学生個々の特性に応じた適切な就職支援を行っている。	

5-2　中途退学への対応

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
5-2-1　退学率の低減が図られているか	2 ~~3~~	退学率を各学科の在籍者の５％を目標に学生の身上把握、早期面談の実施、家庭との連携等を試みたが、理学療法学科１年生の退職率は 28.8％、柔道整復学科１年生の退学率は56％と低調であった。 学習意欲や目的を見失わない様に、担任の定期的な面談と学科全体で退学徴候を共有し取り組んでいる。	・成績不良による退学者防止が一部不十分 成績不良者の退学防止具体策と実行が重要 ・出席簿による日々の出席管理やタイムリーな指導がやや不十分 ・病気、家庭（経済的）の理由による退学者が一定数存在する。	・学生個々の能力に応じた先行的かつ継続的な学習指導 ・個々の状況が把握し易い出席簿の改善 ・学則指導、特に試験に関する事項について指導を徹底する。 ・経済的理由に対しては、各種奨学金制度やや高等教育の修学支援新制度を紹介し、学生を支援する。	

中項目総括（中途退学への対応）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
退学者の半数以上が成績不良によるもので、学生個々の能力等に応じた学習指導が大事である。 一方で、学則（試験関連）の把握不足の学生や、病気や家庭の事情による学生もいるため、様々な観点からの学生のサポートが必要である。	

5-3　学生相談

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
5-3-1　学生相談に関する体制を整備しているか	3	クラス担任制による他、必要に応じ学科長主導による総合的な対応を行うとともに、相談箱を設置し、投書内容に真摯に回答をしているところであるが、「学生間でいじめを受け修学意欲が低下した」と主張して１名の学生が退学した。	・学生の悩みを早期に察知できるネットワーク構成の検討が必要・相談箱利用回数年間２回と低調	・今後カウンセラー資格を持った教職員を配置し、より効果的な学生相談体制と情報共有体制の整備 ・学生に対する本制度の周知	
5-3-2　留学生に対する相談体制を整備しているか	1	留学生不在により取組等なし。	特になし	特になし	

中項目総括（学生相談）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
クラス担任を中心に対応している。 また、学生の意見を適時に取り入れるよう心掛けている。	

5-4　学生生活

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
5-4-1　学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	3	学校独自の特別特待生制度を設置するとともに、高等教育の修学支援新制度を含めた日本学生支援機構の奨学金制度等を担当事務職員を指定し、学生が利用し易い支援体制を整備している。 　また、必要に応じ病院からの奨学金制度を紹介する等、有効に活用している。	・高等教育修学支援新制度の機関要件の維持及び制度の普及 ・専門実践教育訓練給付金制度、教育訓練支援給付金制度対象校としての指定取得	・学生の充足率８０％確保、国試受験率の向上 ・保護者への積極的な情報提供及びクラス担任を含めた継続的な修学支援制度に関する普及教育	
5-4-2　学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4	２０２１年度から定期健康診断を実施している。	特になし	特になし	
5-4-3　学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	4	系列学園の学生寮を斡旋している。 不動産企業の寮・アパート情報を提供している。	特になし	特になし	
5-4-4　課外活動に対する支援体制を整備しているか	2	クラス担任等が学生の希望に応じ可能な範囲で支援を実施している。	組織的な支援体制については、十分整備できていない。	定期的に学生の意見を聴取し、必要な支援体制を確立する。	

中項目総括（学生生活）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生に対する経済的支援及び系列学園学生寮の斡旋等、学生生活面の支援・管理体制は整っている。但し健康管理及び課外活動における支援体制はやや不十分である。	

5-5　保護者との連携

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
5-5-1　保護者との連携体制を構築しているか	3	学業等について保護者を含めた三者面談を定期的に実施するとともに、学事等必要な情報を適時家庭通信やホームページで提供し、保護者が相談し易い環境作りに努力している。	特になし	特になし	

中項目総括（保護者との連携）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学時の保護者を含むオリエンテーション、定期的な保護者参加による三者面談、学事等必要な情報を家庭通信やホームページにより提供する等、保護者との連携構築に努めている。	

5-6　卒業生・社会人

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
5-6-1　卒業生への支援体制を整備しているか	2	病院等の臨床実習の機会に卒業生の激励や活躍状況の把握を行っている。また、相談があれば卒業後も就職のサポートを実施している。	能動的な支援体制は整備できていない。	就職支援体制の強化による能動的な卒業生への支援体制の構築	
5-6-2　産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発･実施に取組んでいるか	2	病院等の臨床実習の機会を捉え、関連業界等と連携・協力を図っている。	関連業界との連携等が十分とは言えない。	病院等の関連業界との能動的なアプローチ	

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
5-6-3　社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	社会人学生が約３０％在籍しており、経歴・仕事面等を考慮しながら高校新卒学生同様、親身な対応をしている。	特になし	特になし	

中項目総括（卒業生・社会人）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
実社会での卒業生の勤務状況の把握と激励・アドバイスの実施、社会人学生に対しては、経歴・仕事面を踏まえた教育指導を学生個々の状況に応じ支援を行っている。	

基準６　教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
【総括】 ・施設・設備等の整備に関しては、毎年、施設・設備整備計画を作成し、計画的な整備に努めている。また、防災・安全管理については、学校規程に基づき点検・整備を行っている。 ・学外実習については、病院等の実習先を確保し、学生の能力・特性を踏まえ効率的な臨床実習に努めている。 【課題】 ・各学科の規則改正に伴う備え付け教材・機械器具の整備 ・病院等の臨床実習施設の安定的な確保 ・経年変化により、学校施設・設備の老朽化が進んでいる。	・優先順位に基づく機械器具の購入と授業への確実な活用（使用実績の記録等） ・バイザー会議等による病院・施設との連携強化（令和４年１２月実施予定） ・中・長期の施設・設備整備計画により計画的な整備の実施	

6-1　施設・設備等

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
6-1-1　教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3	設置基準に基づく施設・設備を維持している・	規則改正に伴う備え付け機械器具の計画的購入	経費面を考慮した施設整備の中・長期整備計画の作成と計画的実行	

中項目総括（施設・設備等）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
年度ごと施設・設備等計画を策定しており、予算と吻合させ優先度を考慮し、計画的な整備に努めている。	

6-2　学外実習、インターンシップ等

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
6-2-1　学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4	組織的な臨床実習施設の確保及び実習状況の把握はやや不十分。また、学内の実技実習は小グループにより効果的な教育に努めている。	病院等の臨床実習施設の安定的な確保	・臨床実習指導者会議（バイザー会議）等による病院・施設との連携強化 ・病院研修（兼業）の機会をとらえ臨床実習施設の確保	

中項目総括（学外実習・インターンシップ等）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生数に応ずる病院等の実習先を確保するとともに、毎年、学生の能力・特性を考慮して実習先を決定し、効果的な臨床実習に努めている。	

6-3　防災・安全管理

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
6-3-1　防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4	事務職員の担当者を指定し、計画的に防災訓練・防火設備点検を行っている。	特になし	特になし	
6-3-2　学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4	学内における安全管理規程を整備し、定期的に安全に関する施設・設備等の点検を行っている。	経年変化により、学校施設・設備の老朽化が進んでいる。	中・長期の施設・設備整備計画の作成と計画的な整備の実施	

中項目総括（防災・安全管理）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
防災及び安全管理に関する学校規程を整備しており、各規則に基づき定期的に点検を実施し、不具合事項については適宜整備を行っている。	

基準７　学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
【総括】 ・学生募集活動に関しては、学校案内、パンフレット、ホームページ等の紙・電子媒体を通して、高校生・社会人に対し、広く募集広報を行っている。また、入学選考については、入試・広報規定並びに学生募集要項に明示するとともに、広報委員会及び広報会議の場で毎年、分析・検討を行っている。 ・学納金については、学則及び学生募集要項に明示しており、他校に比較し、金額は妥当と思われる。 【課題】 ・教職員の募集広報能力の向上 ・１８才人口の減少及び競合校の増により、募集学生の確保に苦慮	・教職員の募集広報に係る勉強会、機会教育の実施 ・競合校との差別化（本校のウリ）検討	

7-1　学生募集活動

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
7-1-1　高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	高い就職実績と国家試験合格までの教育ノウハウ、多くの卒業生が医療業界で活躍していることを高校訪問や広報資料の送付、オープンキャンパス、進路ガイダンス、ホームページ、ＳＮＳ等を通じ、情報提供に努めている。また、学校の魅力を整理し明確にするとともに認識の統一を図った。	教職員の募集広報能力の向上	・広報会議における情報の共有及び教育 ・教職員の募集広報に係る勉強会及び機会教育の実施 ~~・学校訪問マニュアルの作成~~	

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
7-1-2　学生募集を適切、かつ、効果的に行っているか	3	教職員に広報担当区域を割り当て高校訪問を行うとともに、ホームページ、進学サイト、ＳＮＳ等の電子媒体を駆使し、学生募集活動を行っている。 　高校訪問時には、必ずアポイントを取った上で効率的・効果的に実施するように統制した。また、高校訪問マニュアルを作成した。	・１８歳人口の減少及び競合校の増加により、募集学生の確保に苦慮することが予想される。	・競合校との差別化（本校のウリ）検討と積極的な広報 ・マスコミを活用した、本校の取り組みに関する情報発信 ・教職員の募集広報能力の向上 ・オープンキャンパスの魅力化 支援学生による説明の場の拡大	

中項目総括（学生募集活動）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校案内パンフレット、募集要項及び令和３年５月にリニューアルしたホームページ等の紙・電子媒体を通じ、高校生・社会人に対し広く募集広報を行っている。また、高校訪問、オープンキャンパスの実施により、直接対面広報を行い募集学生の確保に努めている。	特になし。

7-2　入学選考

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
7-2-1　入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4	入試・広報に関する規程及び毎年度作成している。学生募集要項に入試選考基準・方法等を明確に定め学生募集について適切に運用している。	特になし	特になし	

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
7-2-2　入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	入学受験者の状況を分析し、学生の能力・特性を踏まえた授業等のあり方について検討を行い授業等の改善に活用している。	入学者の学習能力に応じた授業の実施。	入学者の学力を把握するための学力試験の実施を検討（柔道整復学科では数年前から実施している。）	

中項目総括（入学選考）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入試・広報規程と毎年作成する学生募集要項に入試選考基準を明示している。募集状況については、週１回の広報委員会及び年２～３回の広報会議において分析・検討を行ない学校教育に反映させている。	

7-3　学納金

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
7-3-1　経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4	県内の同種の専門学校の校納金と、社会情勢を基に適正に算定し決定している。授業料は年間 2 回分割納入方法を採用し、延納等の徴収猶予制度を設けている。	特になし	特になし	
7-3-2　入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	4	入学辞退の手続きについては学生募集要項に明示し、辞退者に不利益が生じることがないよう、最大限の配慮を行っている	特になし	特になし	

中項目総括（学納金）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学納金については、学則及び学生募集要項に明示しており、県内の競合校と比べ安価な方であり、金額は妥当なものと思われる。入学辞退者については、入学金を除く授業料等は返還し適切に対応している。	2019 年以降、経済的な理由により進学が困難な学生の経済的負担を軽減する事を目的とした「高等教育の修学支援制度」の対象校として確認を受けている。

基準８　財　務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
【総括】 ・法人として作成している中期（５ケ年）経営改善計画に基づき、財務の効率化を図るとともに、毎年の予算編成（見積り）を法人本部に提示し適切に予算を執行している。 ・監査については、毎年、公認会計士の監査を受検し、財務状況をホームページに掲載し公開している。 【課題】 ・予算面から安定的な学生数の確保が重要である。	・時代の変化に応じ、毎年の募集対象者の状況を踏まえ、効果的かつ効率的な募集広報のあり方について定期的に検討を行なう。	

8-1　財務基盤

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
8-1-1　学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	学校法人全体として毎年経営改善計画を作成し効率的・効果的な運営に取り組んでいる。又各学科の定員を充実させることを第一目標とし、財務基盤の安定を目指す努力をしている。	財務基盤の安定は定員に見合う入学者の確保が重要である。	効果的かつ効率的な募集広報	
8-1-2　学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4	毎年、課目ごとに財務状況分析を行い、財務状況を正確に把握し経営改善のため公認会計士の監査を受験し財務執行に関する改善指導を受けている。	特になし	特になし	

中項目総括（財務基盤）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法人全体として、中期（５ヶ年）経営改善計画を作成し、財務の効率的かつ効果的な運用に取り組んでいる。	

8-2　予算・収支計画

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
8-2-1　教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	予算編成に関しては、教育目標との整合性、財務状況を念頭に置いた予算計画を策定している。	特になし	特になし	

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
8-2-2　予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	3	毎年度、事業の優先度・重要度を見極め限られた財源に基づき予算の執行計画を策定し経費削減を念頭に予算執行を行っている。	予算面から安定的な学生数の確保が重要である。	効果的かつ効率的な募集広報	

中項目総括（予算・収支計画）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
予算編成に関しては、年度末に次年度の予算編成（見積り）を法人本部に提示している。予算執行状況については、毎年公認会計士の監査を受け改善を図っている。	

8-3　監査

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
8-3-1　私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4	会計監査については法人本部の規定により公認会計士による部外監査が適正に実施されており指摘事項については適切な是正処置を行てる。	特になし	特になし	

中項目総括（監査）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法人計画により毎年４月～５月にかけ、定期的に公認会計士の監査を受検している。	

8-4　財務情報の公開

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
8-4-1　私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	私立学校法に基づいた財務情報をホームページに公開している。	特になし	特になし	

中項目総括（財務情報の公開）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務情報については、法人本部指導のもと、毎年ホームページに掲載し公開している。	

基準９　法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
【総括】 ・法令、専修学校設置基準並びに法人規程等に基づき、個人情報保護を含め学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に校務を運営している。 ・学校評価については、毎年の自己点検・評価と、令和２年度から新たに行なう学校関係者評価をもって、より現実的な学校運営の評価・改善を図る。また、学校運営状況については、ホームページを通じ学生、保護者、関連業界等に広く公開している。 【課題】 ・学校関係者によるより現実的な評価	・令和元年１１月作成の学校諸規程類の見直し修正の実施（実情との整合性や問題点の解消） ・令和２年度以降、学校関係者評価を実施している。	

9-1　関係法令、設置基準等の遵守

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
9-1-1　法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	法令・専修学校設置基準に基づき適正に学校運営を行っている。	特になし	特になし	

中項目総括（関係法令・設置基準等の遵守）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法令・専修学校設置基準に基づき、学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に校務を運営している。	

9-2　個人情報保護

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
9-2-1　学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	法人の規程に基づき適切に個人情報保護のための対策を行っている。	特になし	特になし	

中項目総括（個人情報保護）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報の保護については、法人の規程に基づき、適切に運用している。また、個人情報保護の適否が不明な場合は、顧問弁護士に相談・指導を受け、合規適正な対応に努めている。	

9-3　学校評価

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
9-3-1　自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	毎年自己点検・評価を行い問題点の改善を行っている。	学校関係者による評価	令和元年度以降学校関係者評価を実施	
9-3-2　自己評価結果を公表しているか	4	令和元年度より自己点検・評価結果を学校ホームページで公表している。	特になし	特になし	
9-3-3　学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4	学校関係者評価を含めた学校評価規程を新しく策定し、今後はこれに基づき学校評価を行なう。	特になし	特になし	
9-3-4　学校関係者評価結果を公表しているか	4	学校ホームページに、令和２年度以降、学校関係者評価の結果を掲載し公表する。	特になし	特になし	

中項目総括（学校評価）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年、自己点検評価を行ない校務の改善を図っている。令和２年度からは、新たに学校関係者評価を受け、校外者の意見等を聴取し、より現実的な学校運営改善を図る。	

9-4　教育情報の公開

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
9-4-1　教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	・機関要件確認申請書の内容をＨＰで情報公開している。 ・新入生には、シラバスを紙媒体で配布している。また、全学科・学年のシラバスを２階ロビーのパソコン上に公表している。	特になし		

中項目総括（教育情報の公開）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校ホームページに学校の概要、教育活動情報、成績管理、シラバスの内容等を掲載し、学生・保護者・関連業界等に広く公開している。	

基準１０　社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
【総括】 ・社会・地域貢献としては、学校行事、高校等への進路ガイダンスを通じ、医療リハビリに関する体験学習講座を実施している。新型コロナの影響を受け、ボランティア活動や学校近傍の公的機関・介護施設等のイベントへの参加はできなかった。 【課題】 ・学生のボランティア活動状況の的確な把握と啓蒙	・　近い将来の With コロナの生活環境における社会・地域貢献のあり方を検討して学生へ普及するとともに、社会・地域への発信要領を明確化することが必要である。	

10-1　社会貢献・地域貢献

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
10-1-1　学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	コロナ禍の影響により高校の進路ガイダンス等を除き、社会貢献・地域貢献は実施できなかった。	コロナ禍を踏まえた社会貢献・地域貢献のあり方を検討。	令和４年度以降、シルバーｅスポーツの普及に取り組む予定。	
10-1-2　国際交流に取組んでいるか	1	留学生が在籍していないことから、現在、積極的に国際貢献に取り組んでいない。	特になし	特になし	

中項目総括（社会貢献・地域貢献）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校行事及び高校等への進路ガイダンスの場を通じ、医療リハビリについて体験学習講座を実施し、社会・地域への貢献を行っている。国際交流については、留学生不在のため、現在積極的には取り組んでいない。	

10-2　ボランティア活動

小項目	評価	現状・具体的な取組等	課　　題	課題の改善方策	参照資料
10-2-1　学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3	令和３年度は新型コロナ感染症の影響によりボランティアイベント等への参加はできなかった。	学生のボランティア活動への積極的な参加を推奨	ボランティア活動に参加している学生の激励や輸送等の支援を積極的に行うとともに、ホームルームでの紹介並びに活動様子をホームページ等に掲載することにより継続的な学生への啓蒙を図る。	

中項目総括（ボランティア活動）	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校近傍の公的機関や本校教育に関連する介護施設等に対し、学校又は学生自らが参加し、ボランティア活動を行っている。	

4　令和３年度重点目標達成についての自己評価

令和３年度重点目標	達成状況	今後の課題
１　教育 （１）全学科２学期制への移行のため、鍼灸学科及び柔道整復学科のカリキュラムの変更。 （２）進級率、卒業率、なかんずく国家試験合格率の向上を図る。 （３）ＦＤの一環として、教員相互の授業観察を実施する。 （４）教育の魅力化、国家資格に加えた付加価値としての認定トレーナー資格取得を推奨する。	１　教育 （１）国家試験の合格率は、柔道整復学科を除いた３学科は、前年度を下回った。 （２）病院・施設等との密接な連携のため、臨床実習指導者会議を開催した。	１　教育 （１）教育の質の向上と受験率・合格率の向上 ・国家試験対策（授業、試験要領）の充実 ・学力の低い学生に対する個別指導の徹底 ・オンライン授業の充実・改善 ・教員相互の授業観察による技能向上 （２）付加価値のある教育内容の充実 日本アクティビティ協会「健康ゲーム指導士」及び日本スポーツリハビリテーション学会（ＪＳＳＲ）トレーナーに関する教育の継続 （３）臨床実習の充実 ・バイザー会議による病院・施設との連携強化 ・新型コロナ感染症のため校内で臨床実習に替る教育を行う要領の更なる整備
２　学生支援 （１）「就職セミナー」、「合同就職説明会」を含む組織的な就職サポートによる、就職率１００％の達成 （２）厚生活動として、４月から５月にかけて「新入学生フレンドシップサークル」を、１１月には「学校祭」、１２月には「餅つき大会」を実施し、学生間並びに地域住民との交流及び連携強化	２　学生支援 （１）卒業生で就職サポートを希望する学生の就職率１００％を達成できた。 （２）新型コロナ感染症の影響で、「新入学生フレンドシップサークル」、「餅つき大会」は中止、「学校祭」は感染対策を考慮したうえで実施し、オンライン配信した。	２　学生支援 （１）希望者の就職率１００％の維持 （２）高等教育修学支援新制度の機関要件の維持 学生の充足率８０％以上の確保 （３）専門実践教育訓練給付金制度、教育訓練支援給付金制度対象校としての指定継続
３　募集・広報 （１）出張講義、進路説明会、高校・施設訪問及びオープンキャンパス等の接触広報の充実	３　募集・広報 （１）新型コロナ禍の状況下で、感染対策を講じてできる限りの対面広報とオンラインにより、オープンキャンパス参加者数は、令和２年度を上	３　募集・広報 （１）マスコミを活用した、本校の取り組みに関する情報発信 （２）競合校との差別化の推進

（２）ホームページをリニューアルする等、インターネットを活用したデジタル広報の強化 （３）令和４年度入学者１２０名以上の獲得	回ることができた。 （２）学生を含めたインスタグラム投稿の協力により、フォロワー数を拡大できた。 また、ホームページをリニューアルし、広報活動の充実を図った。 （３）令和４年度入学者１４７名を確保し募集目標を達成した。	（３）教職員の募集広報能力の向上 （４）オープンキャンパスの魅力化 支援学生による説明の場の拡大

最終更新日付	令和４年６月３０日	記載責任者	有永　浩己